

地質情報基盤センターの2020年度研究戦略

佐脇 貴幸¹⁾

1. 地質情報基盤センターのミッション

産総研第5期中長期計画において、地質調査総合センターは、社会課題の解決に向けた環境評価等技術の開発、強靱な国土と社会の構築に資する地質情報整備と地質の評価、産業競争力強化に向けた産業利用に資する地圏の評価と並んで、知的基盤整備計画に基づく地質情報の整備、地質情報の管理と社会への活用促進を図ることとしています。

地質情報基盤センターでは、このうちの「地質情報の管理と社会への活用促進」を推進することをミッションとしています。産総研2号業務「地質の調査」の実施によって得られた研究成果の総体である地質情報が、社会的に広く理解・共有され、安全・安心で質の高い社会生活の実現に資することがアウトカムとして重要です。そのために、地質情報及び地質資試料の管理、公開、提供及び展示等による普及活動を実施することを、当センターのミッションと位置付けています。

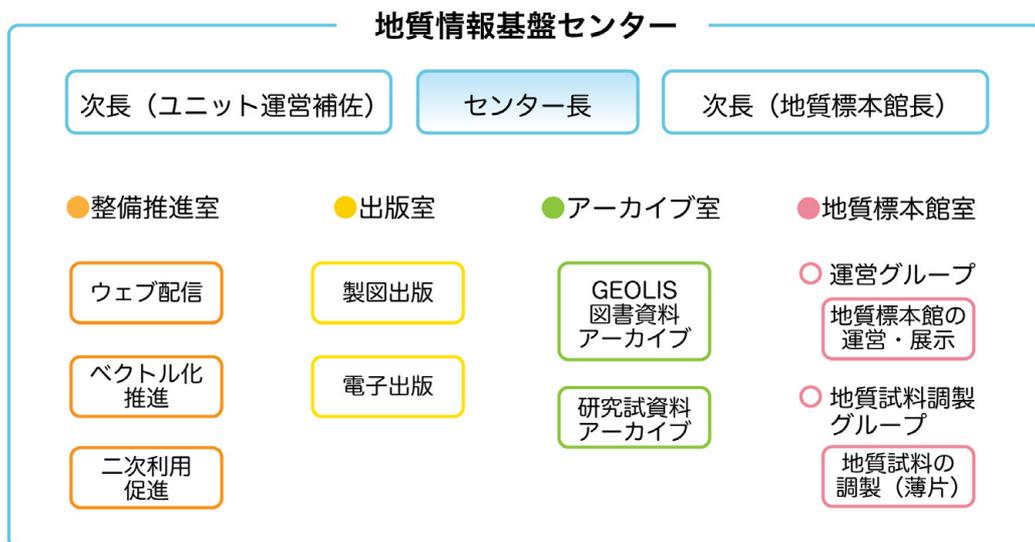
2. 地質情報基盤センターの業務計画

上述の「地質情報の管理と社会への活用促進」のために、

地質情報基盤センターでは以下の方針に沿って業務を進めます。

- 研究部門により整備された地質情報の着実な出版と、地質情報デジタルデータの発信を強化する。
- 公表された地質情報の一次データをアーカイブ管理することにより、当該成果の科学的根拠を保証する。
- 地質標本館の継続的な運営と展示等の新規企画により、一般への地質情報の普及を促進する。また、博物館実習の実施により、外部人材育成に貢献する。
- 地質試料調製業務により、地質調査総合センターの地質情報の高度化を担う。また、薄片技術研修の実施により、外部人材育成に貢献する。
- 以上により、国の知的基盤整備計画を着実に実施するとともに、産業利用・新ビジネス醸成等へつながる地質情報の二次利用促進を支援する。

上記の方針に沿って、2020年度には、以下の業務を重点的に実施することとしています。なお、地質情報基盤センターは、整備推進室、出版室、アーカイブ室、地質標本館室(運営グループ及び地質試料調製グループ)の4室から構成されています(第1図)が、各業務の主対応室名を各文末に付記しています。また、第2～5図には、各室



第1図 地質情報基盤センターの組織と業務概要

1) 産総研 地質調査総合センター 地質情報基盤センター

が実施する業務の事例を示しています。

- 地質情報の発信について、利活用性の高い情報提供システムの維持・改善を行うとともに、標準データ形式でのデータ整備を進める。【整備推進室】
- 発信中の地質情報について、利用しやすさと見つけやすさを向上するためのリポジトリ及びカタログ機能の整備を検討する。【整備推進室、アーカイブ室】
- GSJ 公式ウェブサイト及び地質情報データベース群を安定して運営するためのシステム管理を継続するとともに、データベースの新規公開・改修・データ更新等を支援する。【整備推進室】
- 研究部門により整備された地質情報を、高精度で信頼性の高い地球科学図類、研究・調査報告書等として編集・出版する。【出版室】
- 機関アーカイブを定常的に運用し、研究基礎データの組織的な管理を行う。【アーカイブ室】
- 新・旧の地質関連文献の収集を継続し、重要な記録の保存・活用を進める。地質文献のデータベースを整備することで、地質調査総合センターが所蔵する書誌情報の一般への提供を行う。【アーカイブ室】
- 地質標本(化石、岩石、鉱物等)の新規登録と整理を進める。登録標本のデータベース化を推進し、管理機能を強化することで、所内外での地質標本の更なる利用促進普及を支援する。【アーカイブ室】
- 地質標本館で、GSJの最新の研究成果や、地質の情報

を常設展や特別展で紹介する。また、所内外でのイベント開催及び出展に協力する。【地質標本館室】

- 地質試料調製技術に関して、研究実施を支えるための滞りない業務実施、及び高い技術を必要とする試料に対しての処理技術の向上を図る。【地質標本館室】
- 大学や地質関連企業等から実習生を募集し、博物館実習及び薄片技術研修を実施する。【地質標本館室】

以上が基本的な定常業務の内容ですが、社会的環境の変化(例えばデータ配信技術の進化や新型コロナウイルスの蔓延など)に対応し、発生した課題や問題点に積極的に取り組んで対処していくこととしています。ご承知の通り、特に今年度は、新型コロナウイルスの蔓延が大きな社会問題となっています。地質情報基盤センターとしては、特に産総研外の方との接点が最も注意を払うべきところと認識し、ウィズコロナの時代であることを念頭に置いた上で、安全衛生に十二分に配慮した地質標本館の運営と成果普及活動、技術研修等を実施し、継続的に地質情報の普及促進に努めていく所存です。

謝辞: 第1図は地質情報基盤センターの都井美穂氏に作成していただいています。第3図の報告書の写真は地質情報基盤センターの中島和敏氏により撮影、及び清水恵氏に画像処理していただいたものです。ここに記し御礼申し上げます。



▲ GSJウェブサイトの運用
(www.gsj.jp 閲覧日:2020年7月31日)



▲ 地質情報データベースの管理
(www.gsj.jp/researches/geodb/category/ 閲覧日:2020年7月31日)

第2図 整備推進室の業務例:GSJウェブサイトの運用及び地質情報データベースの管理



▲ 5万分の1地質図幅

▲ 20万分の1地質図幅

▲ 火山地質図

▲ 各種地球科学
成果報告書類

第3図 出版社の業務例：「地質の調査」にかかわる研究成果物の出版

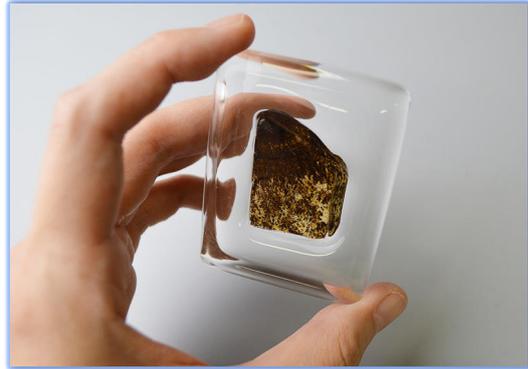


▲ 地質文献の収集・管理・提供



▲ 地質標本(登録標本)の管理

第4図 アーカイブ室の業務例：地質文献の収集・管理・提供及び地質標本の管理



▲ 所内外における研究成果普及活動

▲ 薄片作製技術の高度化及び技術研修
(www.gsj.jp/geoinfo-center/mus-gsp/ 閲覧日: 2020年7月31日)

第5図 地質標本館室の業務例: 所内外での成果普及活動及び薄片技術の向上・研修

SAWAKI Takayuki (2020) Working plan of the Geoinformation Service Center in FY 2020.

(受付: 2020年8月3日)